

これからの働き方と「しごとのみらい」

vol.04

職場の一体感を醸成したいなら 「旅行以上、研修未満」の研修型社員旅行

特定非営利活動法人しごとのみらい
サイボウズ株式会社

竹内 義晴



PROFILE

竹内 義晴 (たけうち よしはる)

自動車会社勤務、プログラマーを経て、現在は妙高市でNPO法人しごとのみらいを運営。組織作りやコミュニケーションの企業研修や講演を行っている。また、東京のIT企業サイボウズにも所属。マーケティング・ブランディングに携わる。複業やテレワークなど、地域と都市部を往来しながらこれからの働き方を実践した経験から、2020年6月妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会に参画。ワーケーションや関係人口構築の事業開発を行っている。

社員旅行にいい思い出、ありますか？

もしあなたが、職場づくりに関わっていらっしゃったら、「職場のコミュニケーションをよくしたい」「一体感を醸成したい」と思ったことはありませんか？ その1つの手段として、社員旅行をお考えになったことがあるかもしれません。

一昔前の社員旅行といえば、週末、職場の同僚とバスに乗って温泉地などに行き、日中は観光を楽しんだのち、宿に着いたら温泉に入って、疲れた体を癒す。そのあとは、宴会場に移動して待ちに待った大宴会。飲みや歌えやで夜が更けるまで盛り上がったあと、翌日は、おみやげを買って、地域のおいしいものを食べて、帰路について、解散……そんな感じが、一般的な社員旅行でした。ちなみに、1990年代は約8割の企業で社員旅行が行われていたそうですが、「あれはあれで、楽しかったなあ」と思っている方も多いのではないのでしょうか。

一方、現在の社員旅行事情はだいぶ変わってきているようです。2021年1月に産労総合研究所が発表した「2020年 社内イベント・社員旅行等に関する調査」によれば、社員旅行の実施率は27.8%。前回調査から9.1%ポイントの下落と、4社に1社しか実施していないそうです。もっとも、今回の調査ではコロナ禍の影響もありそうですが、それでも「社員旅

行は減少傾向にある」ことは間違いのないでしょう。

なぜ、社員旅行は減ったのか？

ところで、なぜ、社員旅行が減ったのでしょうか。それは「行きたくない」と思っている人が少なからずいるからなのでしょう。実際、インターネットの検索エンジンで「社員旅行」と入力すると、キーワードの予測変換に「行きたくない」「いかない」と出てきます。また、JTBが調査した「社員旅行に関する調査」によれば、「行く」派は42%、「行きたくない」派は47%と二分しています。

もっとも、「行きたくない」と思う人の気持ちも分かる気がします。社員旅行と言えば、大概は土日です。「仕事の延長のようで旅行を楽しめない」と思う人もいるでしょうし、「なんでせっかくの休みに、上司と旅行に行かなくちゃいけないんだ」「仕事とプライベートは分けたい」と思っている人もいるでしょう。

一方で、社員旅行が「全く価値がないのか？」という、そうとも言い切れないのではないかと考えています。実際、私もかつて社員旅行には何度か行きましたが、上司の意外な一面が見えたり、同僚との親睦が深まったり、普段あまり話す機会が少ない別の部署の人とコミュニケーションが取れたりした経験があります。

そういう意味では、社員旅行の「いいところ」が活かされ、「よくないところ」がなくなるような、ちょうどいい塩梅があるといいのにな……とも思います。

「社員旅行以上、社員研修未満」の研修型旅行

私の意見では、これからの社員旅行は、かつての「週末に行く、単に懇親が目的の旅行」ではなく、仕事として「行く目的」がちゃんとあり、かつ「親睦が深められる」ような内容がいいのではないかと考えています。仕事ですから、当然「業務」です。

事例をお話します。私はいま、妙高でしごとのみらいという、職場づくりやコミュニケーションを改善する研修や講演を行っているNPO法人を運営しながら、サイボウズという東京のIT企業でも働いています。妙高と東京を行き来する中で、以前から「新潟の素晴らしい自然や文化を活かした研修はできないか」とずっと考えてきました。そこで、サイボウズの社員に向けて、そばの収穫やそば打ち体験などを組み合わせた「農作業キャンプ」を企画。実施したところ「そばの収穫では目的を共有したときに自然と役割分担できた」「そば打ち体験は人生初で、農作業も普段なかなかできない体験だった」「自然に触れることで癒され、非日常感を味わえた」など、「チームワークの学びにもなり、楽しくもある」と参加者からも好評でした。



「チーム de そば打ち」の様様。リアルな共同体験が、コミュニケーションが不足しがちなテレワーク時代のチーム作りに役立つ。

また、2020年6月から、妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会にも所属し、妙高市のワーケーション事業の立ち上げを行っています。職場の人間関係を改善するコミュニケーション研修と、メンタル面で癒し効果がある「森林セラピー」を組み合わせたプログラムでは、「思った以上に癒された」「チームビルディングにもよさそう」といった声が届きました。また、コロナ禍でテレワークを強いられている都市部の企業に向けて、テレワーク時のテキストコミュニケーションのセミナーと、不足しがちな「リアルなコミュニケーション」を補うためにそば打ち体験をセットにしたプログラムを企画。「テレワークでコミュニケーションが減っていたが、共同体験が思いのほかよかった」といった声が届きました。

社員旅行にも「意味づけ」をする

このような、「社員旅行以上、社員研修未満」の研修型旅行であれば、社員にとっては「業務として」行く目的が明確になりますし、企業にとっても単なる福利厚生ではなく、費用負担する意味が生まれます。また、コロナ禍の状況にもよりますが、夕食時に懇親会を行えば、親睦を深めることもできます。

「学びもあるし、親睦も深められる」「企業にとっても社員にとってもうれしい」——このような学びと親睦がデザインされた形が、これからの社員旅行だと思ふのです。